

平成 30 年 10 月 19 日

倉敷市長 伊藤 香織様

西安市長安区訪問、日中平和友好条約 40 周年交流座談会の報告

日中友好協会倉敷支部
理事長 大飼 繁

10 月 15 日午前中、日中友好協会倉敷支部の訪問団が、真備町時代から 交流のあった西安市長安区教育局を訪問し、倉敷市長の挨拶状を手渡しました。西安市長安区では私たちが丁重に歓迎していただき、表記の座談会を開催することになりました。

長安区からは副区長梁文輝様、区政府副主任の程雅芥様、外事弁公室の劉文慧様、教育局長の李鵬程様、同副局長の李文涛様など 9 名が参加しました。

倉敷市の 訪問団は 16 名 全員が参加し、訪問、交流の挨拶を行い、今後の交流推進のための 座談会に参加しました。その概要は以下の通りです。

- 1 長安区副区長梁文輝様から 真備町以来、さらに古くは吉備真備以来の交流を踏まえた歓迎の挨拶があり、ことに日中平和友好条約 40 周年の年に、日本の首相の訪問も間近な時期に訪問が意義深いこと、また、真備町の水害に対するお見舞いの言葉がありました。
- 2 日中友好協会倉敷支部の訪問団長大飼繁が、長安区の暖かい歓迎に対するお礼の言葉を述べ、並びにこれまでおよび今回の日中友好協会倉敷支部の中国訪問旅行、交流の意義、目的について説明し、災害のお見舞いに対する返礼についても 触れました。
- 3 教育局長の李鵬程様からは教育、文化面での交流に対する期待と意義が述べられ、生徒の相互訪問についても言及されました。
- 4 日中友好協会倉敷支部の副団長、宇野忠義が遣唐使吉備真備以来の倉敷、岡山と中国との交流の歴史に触れながら、歓待へのお礼を述べました。
- 5 長安区からは歓迎の、倉敷からは訪問の相互の記念品を贈呈しました。ちなみに、長安区から 団長、副団長等全員に掛け軸を頂戴しました。日中友好協会倉敷支部訪問団から長安区副区長さんに備前焼の壺、出席者に土産物、倉敷市のしおり等を手渡しました。
- 6 約 30 分間の座談会では、両者の今後の交流についての要望や見通し、期待などが話し合われた。長安区、教育局側では、文化教育面での交流のほかに、どのような交流ができるのかについての意見交換が必要であり、行政組織とのかかわり、すなわち公式な交流に結びついていくのかどうか、期待が述べられた。

倉敷側では、本年の倉敷国際ひろばへの出展、展示、および来年以降の国際ひろばでの出展について、説明し、勧誘を行った。このことについては継続して検討することとなった。また、訪問団の宇野忠義(弘前大学名誉教授)が、持参した日本と中国のリンゴ生産、経営に関する著書とリンゴの最大の病気であるリンゴ火傷病に関する本と論文を献呈し、その検査、防除問題について意見交換した。陝西省、西安市はリンゴ生産地であり、高い関心が示された。

7 相互交流については、両者とも非常に前向きで、今回の訪問交流を機会にさらに相互の理解、交流を深め、発展させていくことについて同意ができたと思われる。

今後の課題としては、長安区では行政組織が直接組織的に交流にかかわっているが、倉敷側では民間レベルの交流であり、今後何らかの協定を結んだ公式的な交流となりうるのかどうか、行政組織の対応が求められている。その際、相互の交流の実績を重ねながら、交流協定、さらには、都市間の姉妹協定に至るのかどうか、それらの見通しについても配慮しながら、長期的かつ継続的に検討していくことが必要と思われる。その点は、共通した認識である。

以上、公式行事についての報告です。

なお、翌日、訪問団は、長安区が設営し、丁重に整備・管理されている吉備真備の記念碑を訪問し、碑前に献花して、記念写真に収めた。